第6次東浦町総合計画(案) について

タウンミーティング資料

東浦町役場企画政策課

タウンミーティング日程

平成30年7月21日(土) 午前10時 緒川コミュニティセンター 午後1時30分卯ノ里コミュニティセンター 平成30年7月22日(日) 午前10時 生路コミュニティセンター 午後1時30分石浜コミュニティセンター 平成30年7月29日(日) 午前10時 藤江コミュニティセンター 午後1時30分 森岡コミュニティセンター

タウンミーティングの目的

- ■まちづくりの最上位の計画である第6次東浦町総合 計画が策定中であることを知っていただきたい
- ・平成29年度より取り組み、平成30年4月から総合計画審議会で審議していただいている第6次東浦町総合計画 (案)の概要を知っていただきたい
- ・まちづくりの最上位の計画である総合計画(案)へ の住民の皆さんの意見、感想などをお聞かせいた だきたい
- 総合計画(案)への意見募集の機会であるパブリック・コメントへの積極的な参加をお願いしたい

総合計画とは?

- ・東浦町の最上位の計画です
- ・目指すまちの将来像を示し、まちの将来像を実現するための取組を記載します。
- ・総合計画に基づいて、福祉、教育、環境、防災、産業振興、行財政運営などの個別計画を策定し、実施します

現在の総合計画 「第5次東浦町総合計画」とは?

計画期間

10年間: 平成23年度(2011年度)~平成32年度(2020年度)

将来の都市像「笑顔と緑あふれるいきいき都市」

平成32年度の人口を53,000人と想定し、計画期間内での市 制施行を踏まえた計画としました。

主要施策

- ・健康で生きがいのある暮らしづくり(健康・福祉・医療) ・豊かな心をはぐくむ人づくり(子育て・教育) ・安全安心な生活環境づくり(環境・防災・防犯) ・快適な暮らしを支える基盤づくり(基盤整備・産業振興) ・自立した地域経営の仕組みづくり(地域経営)

1 想定より早い人口減少の進展

○第5次東浦町総合計画策定時の人口見通し

2010年(見込)	2015年(見込)	2020年(見込)
50, 080人	52, 000人	53,000人

○国勢調査人口確定値と確定値から推計した人口見通し

2010年(確定値)	2015年(確定値)	2020年(推計値※)
49, 800人	49, 230人	48, 667人

※国立社会保障・人口問題研究所による推計結果

2 想定より早い高齢化の進展

○第5次東浦町総合計画策定時の年齢3区分別人口構成比見通し

	2010年	2015年	2020年
年少人口(0~14歳)	15. 3%	14. 1%	13. 4%
生産年齢人口(15~64歳)	64. 7%	63. 2%	62. 5%
老年人口(65歳以上)	20. 0%	22. 7%	24. 1%

○国勢調査人口確定値と確定値から推計した年齢3区分別人口構成比見通し※

	2010年	2015年	2020年
年少人口(O~14歳)	15. 3%	14. 1%	13. 4%
生産年齢人口(15~64歳)	64. 7%	61. 4%	59. 7%
老年人口(65歳以上)	20. 0%	24. 4%	26. 6%

※2010・2015年は確定値。2020年は国立社会保障・人口問題研究所による推計結果

世代別の人口構成(実数)の見通しはどうなるか?

世代	2015年 人口	2040年 人口(推計値)	増減数
年少人口 (O~14歳)	6, 934人	5, 175人	-1, 759人
生産年齢人口 (15~64歳)	30, 232人	23, 552人	-6, 680人
前期高齢者 (65~74歳)	6, 722人	6, 787人	+65人
後期高齢者 (75歳以上)	5, 342人	8, 402人	+3,060人
全世代	49, 230人	43, 916人	-5, 314人

^{※2015}年は確定値。2040年は国立社会保障・人口問題研究所による推計結果

3 少子化社会の進展

合計特殊出生率1.45※(2008~2012年の東浦町数値)のまま推移するとどうなるか?

分り易くするため、男女200人を対象世代とした事例で 算出すると

- 1世代目 男女200人×1.45÷2=145人(2世代目)
- 2世代目 男女145人×1.45÷2=105人(3世代目)
- 3世代目 男女105人×1.45÷2= 76人(4世代目)
- 3世代でほぼ半減します (200人→105人)
 - ※15 歳~49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの平均の子どもの数

- ・人口増加(横ばい)の時代と人口減少時代では必要な 施策が異なります
- ・人口減少や少子高齢化は東浦町特有の問題ではなく、 日本全体の社会環境の変化です (平成27年国勢調査で人口増加自治体は17.6%)
- 人口増加自治体も、やがて人口減少へと移行します
- ・人口減少そのものよりも、人口のうち世代別の人口の 変化とそのスピードが、より重要となります

人口減少社会、少子高齢社会では

- ・祭礼・イベント等の地域活動の縮小
- 町内立地企業の労働力不足
- •東浦町内での経済活動の縮小
- ・経済活動の縮小に伴う町内立地企業の撤退や労働力不足による 事業規模の縮小
- ・既成市街地での空き家、所有者不明の土地、耕作放棄地等の増加
- ・後期高齢者の増加に伴う介護サービスの供給の不足
- ・統廃合が難しい上下水道等のインフラの更新費用の増大
- ・生産年齢人口の減少や地価下落に伴う税収の減少

などへの対応が求められます

人口減少社会、少子高齢社会 への対応に必要な施策は?

人口減少、少子高齢化に対し必要な施策は?

1. 人口減少を緩やかにすること

2. 人口が減少しても持続できる まちづくりの仕組みをつくること

人口減少、少子高齢化に対し必要な施策は?

1. 人口減少を緩やかにするために必要な取組

名古屋大都市圏と製造業の一大集積地である西 三河地域との結節点にあるという立地を活かし、 **企業立地**による地域内経済活動の活性化、働く場 の創出による町外からの**定住促進**や定住を受け入 れる**住環境の整備**が必要です。

少子高齢社会を踏まえ、暮らしやすいまち(道路網、公共交通、防災、公共施設再配置等)づくりや、**効率的な行政**(AI、IoTの活用等)を推進する必要があります。

人口減少、少子高齢化に対し必要な施策は?

2. 人口が減少しても持続できるまちづくりのために必要な取組

人口減少に伴い、行政は人員、予算などは縮小します。行政を主体としたまちづくりで、現状以上のサービスを提供することは難しくなります。まちづくりの主体となるすそ野を広げた、住民・事業者・行政それぞれが主体となったまちづくりが必要です。

既に各コミュニティでは主体的な取組が行われていますが、この取組のすそ野を更に広げていく必要があります。

第6次東浦町総合計画ではどんなまちづくりを目指すのか?

第6次東浦町総合計画(案) 策定方針

社会環境の変化に対応できるまちづくりのための「長期的な視点」に立った総合計画に

2. まちづくりを「**自分事」として、捉えられる** 総合計画に

3. それぞれの役割を示し「**誰もがイメージ できる**」総合計画に

第6次東浦町総合計画(案)策定に向けた取組

平成29年度

- •住民意識調査(平成29年8月)
- ・団体ヒアリング【ボランティア団体・企業等】(平成29年9月~12月)
- まちづくりワークショップ(全6回 平成29年10月~平成30年1月)
- •若者会議(全3回 平成29年10~12月)
- -オープンハウス【産業まつり】(平成29年11月)

平成30年度

- -総合計画審議会(平成30年4月~10月予定)
- •記念講演会(平成30年6月16日)
- オープンハウス(イオンモール東浦)(平成30年7月9~16日)
- ・タウンミーティング(全6回 平成30年7月21・22・29日)
- ・パブリック・コメント(平成30年8月下旬~9月下旬予定)

第6次東浦町総合計画(案) 構成と期間

1. 基本構想【計画期間】 2019~2038年度 20年後の東浦町を見据え、「どんなまちを目指すのか」を定めます

基本構想には、少子高齢化及び人口減少により大きく社会が変わる中で、東浦町をどんなまちにするのかといった、将来の東浦町の姿、それを実現するためのまちづくりの方向性を示しています。

2. 基本計画【計画期間】第1期2019~2023年度 第2期2024~2028年度 第3期2029~2033年度 第4期2034~2038年度

基本構想にもとづき、5年単位で「何をするのか」を整理します

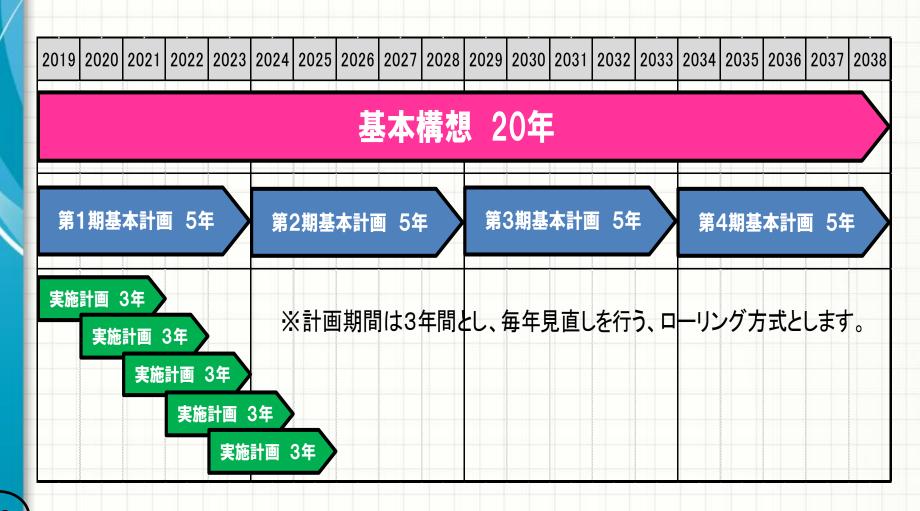
基本計画には、基本構想に書かれた20年後の東浦町の姿を実現するため、東浦町で取り組むべき内容を、様々な分野での取組について示しています。5年間を区切りとして、進み具合や課題を確かめて、次の5年間の基本計画を策定します。

3. 実施計画

基本計画の内容を、3年単位で「どのように行うのか」を組み立てます

実施計画には、基本計画に書かれた様々な分野での取組を進めるため に必要な具体的な事業を示しています。3か年の事業費を含む事業計 画を示し、必要に応じ修正を加えながら毎年度策定します。

第6次東浦町総合計画(案) 構成と期間



第6次東浦町総合計画(案)まちづくりの考え方

1. まちに住む人、まちで活動する人と一緒に まちづくりを考えます

人口増加が続いた高度経済成長期以降の利便性や物質的な豊かさを求めることを重視した価値観から、ワークライフバランスの言葉に象徴されるように、一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働くとともに、家庭や地域生活などにおいても、多様な生き方が選択・実現できる精神的な豊かさを求める価値観へと変わりつつあります。

地域の中で、多様な生き方を選択し実現するには、一人 ひとりの価値観が反映できる、**「住民が主体となったまち づくり」**が必要です。

第6次東浦町総合計画(案)まちづくりの考え方

2. あるものを活かしたまちづくりをします

「~がない」「~があれば」という発想ではなく、東浦 町にあるものの強みを活かす「~がある」「~を活かす」という発 想を持ちながらまちづくりを進めます。

≪東浦町の強み≫

- ・入海貝塚が示すように7,000年前から人が生活を営んできたという、人に優しい、暮らしやすい気候、地勢、歴史
- ・大都市圏に含まれる立地から、商業や交通・通信、教育・文化・娯楽、医療・福祉等、各種の都市機能が、町内または近隣市町にすべて揃っている
- ・名古屋大都市圏と製造業の一大集積地である西三河地域と の結節点にあるという立地

第6次東浦町総合計画(案) 目指す将来の姿

目指す将来の東浦町の姿 『つくる つながる ささえあう 幸せと絆を実感できるまち 東浦』

- 将来の東浦町というまちを、ともに「つくる」意識を持つことで「つながり」、つながることで「ささえあう」関係へと発展させ、「幸せ」と「絆」を実感できるまちを目指します。
- 将来像の中の「幸せと絆を実感できるまち」とは、 多様な生き方・価値観を持つ人々の目指すところ を、それぞれの「幸せ」に集約し、東浦町のまち づくりの象徴を「絆」としました。

第6次東浦町総合計画(案) 目指す将来の姿

「つくる つながる ささえあう まち」とは?

- 「まちづくり」とは「ひとづくり」であり、まちに住む人、まちで活動する人一人ひとりが、まちづくりをどれだけ「自分事」として参加するかがまちづくりの成否の要因と考えました。
- ・人口が減少していく中でも、あらゆる分野においてまちの活力を保つための土台となるのは、人と人とのつながりであり、まちづくりを「自分事」として取り組む人材が豊富なまちほど、活力のあるまちであると考えています。

第6次東浦町総合計画(案) 目指す将来の姿

「幸せと絆を実感できるまち」とは?

・暮らしの安全を保障する防災・防犯に関する取組、 暮らしの利便性・快適性をもたらす交通網の整備 や緑豊かな住環境の整備といった取組など、暮ら しの基本的な部分の取組は大切ですが、人と人と のつながり、個人の成長、やりがいや生きがいを 感じる能力発揮の場、自己実現の場があることが、 まちに暮らす人、まちで活動する人にとって幸せ を実感できるまちであり、まちづくりにおける最 も大切な要素と考えました。

目指す将来の東浦町を実現する ための取組は?

- いつまでもいきいきと暮らせる健康づくり (健康・社会福祉)
- 2. 人を育み、人を活かすまちづくり (次世代育成・生涯学習)
- 3. 暮らしを守るまちづくり (環境・防災・防犯)
- 4. 生活・産業を守る基盤づくり (基盤整備・産業振興)
- 5. 地域を維持する・つなぐ仕組みづくり (地域活動・行財政運営)

1. いつまでもいきいきと暮らせる健康づくり

- ・誰もが心身ともに健康で自立して暮らせる 取組を推進するとともに、子ども・障がい 者(児)・高齢者を地域で見守り、支え合 うことで安心して暮らせるまちづくりを進 めます。
- ・子育て家庭や高齢者世帯が、孤立感や不安 感を抱くことなく、必要な時に必要な情報 や支援が受けられる環境づくりに取り組み ます。

2. 人を育み、人を活かすまちづくり

- ・未来を担う子どもの育みにおいては、教育環境や教育の質の向上などを通じて子どもの成長を重視した 取組を進めます。
- ・住民の皆さんが自由に学ぶ機会を選択し、学ぶことができる場づくりを進めるとともに、学習成果を活かす場や活動の継続等、自主的な学習活動を支援します。
- ・生涯を通じて文化やスポーツに親しめる環境の整備 とともに、文化やスポーツ活動を通じた地域におけ る世代間交流の場をつくります。

3. 暮らしを守るまちづくり

- ・地球温暖化防止や資源の有効活用などの環境問題に対し、住民、事業者、行政が一体となって取り組み、自然と調和したうるおいのある生活環境を保全します。
- ・将来の発生が危惧される東海地震・南海トラフ地震等の自然災害への備えや、防犯、交通安全、消防・救急の充実、通勤・通学に使用する生活道路の安全の確保等に取り組みます。

4. 生活・産業を守る基盤づくり

- ・少子化・高齢化・人口減少といった社会環境の変化 に対応するためには、その対応の原資となる経済活動の活性化が欠かせないことから、東浦町の恵まれた立地を活かした産業振興に取り組みます。
- ・超高齢社会に対応するため、コンパクトなまちづく りの推進により、徒歩で生活できるまちの実現に向 けて取り組みます。

5. 地域を維持する・つなぐ仕組みづくり

- ・自分たちの暮らす地域の人々とつながり、地域の課題を協力して解決するなど、地域を維持する・つなぐ仕組みづくりを強化します。
- ・行政サービス提供の場であり、地域での活動の 拠点ともなる公共施設の更新については、住民 の皆さんとともに検討し最適な配置を目指しま す。

第6次東浦町総合計画(案) 今後の予定

平成30年7月30日 第4回総合計画審議会

平成30年8月~9月 パブリック・コメント

平成30年10月10日第5回総合計画審議会

平成30年12月 東浦町議会へ議案として上程

平成31年4月~ 第6次東浦町総合計画スタート



第6次総合計画

策定中です!

東浦町ホームページ トップページ http://www.town.aichi-higaishiura.lg.jp/